

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

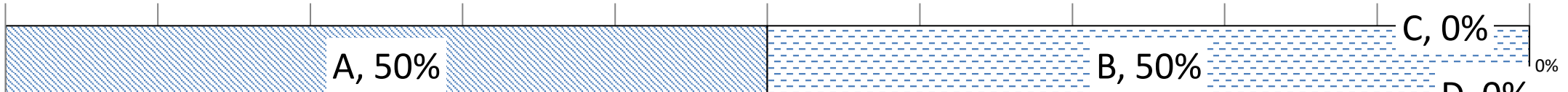
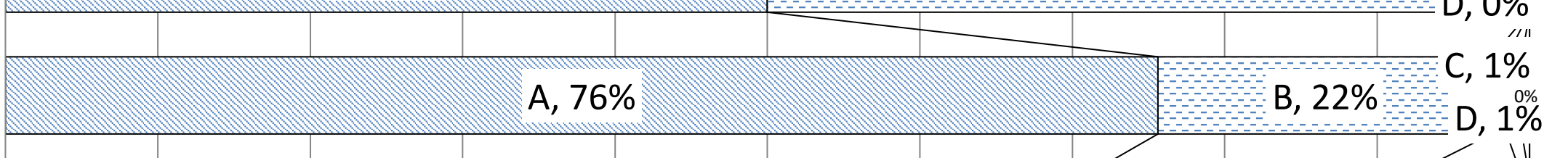
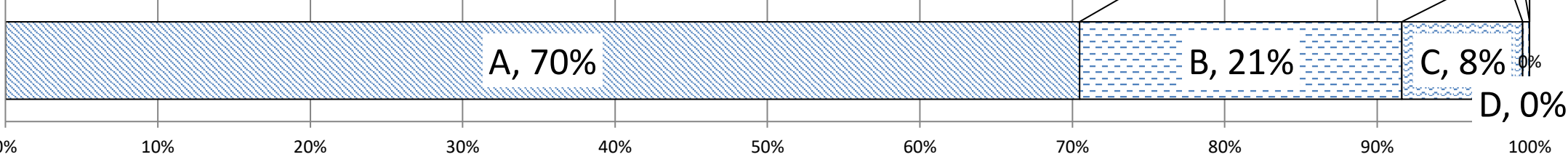
A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 1		＜教務部＞																									
生徒		保護者	教員																								
あなたは、朝の基礎学習に真面目に取り組 み、学習する姿勢が身についた。		-	生徒は、朝の基礎学習に取り組んで学力がつ いてきた。																								
結果	<table><thead><tr><th>対象者</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>無回答</th></tr></thead><tbody><tr><td>教員</td><td>2%</td><td>50%</td><td>40%</td><td>5%</td><td>2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>32%</td><td>55%</td><td>12%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	2%	50%	40%	5%	2%	保護者	0%	0%	0%	0%	0%	生徒	32%	55%	12%	2%	0%
対象者	A	B	C	D	無回答																						
教員	2%	50%	40%	5%	2%																						
保護者	0%	0%	0%	0%	0%																						
生徒	32%	55%	12%	2%	0%																						
原因 及び 反省	○朝の打ち合わせが長引き、教員が朝の基礎学の時間に見に行けないことが多々あり、生徒にやらせっぱなしになってしまっていることがある。また、定期考査時の基礎学テストに対する試験勉強も一夜漬けが多く、結果が思わしくない。〈教員〉 ○意識調査No.4にあるように、昨年度よりも遅刻等をする生徒が減った。また、基礎学の時間に廊下に出歩いている生徒も減り、取り組む姿勢は改善されている。〈生徒〉 ○教員へのアンケートが「学力がついてきた」という表現であるのに対し、生徒のアンケートは「学習する姿勢が身についた」となっており、求められる基準にズレがある。〈その他〉																										
改善策	○ICTを活用して朝の打ち合わせを簡略化し、教員が朝の基礎学の時間に間に合う余裕を作る。 ○アンケートの表現を修正し、教員と生徒が同じ基準で回答できるようにする。 ○基礎学テストの再テストの在り方を検討する。																										

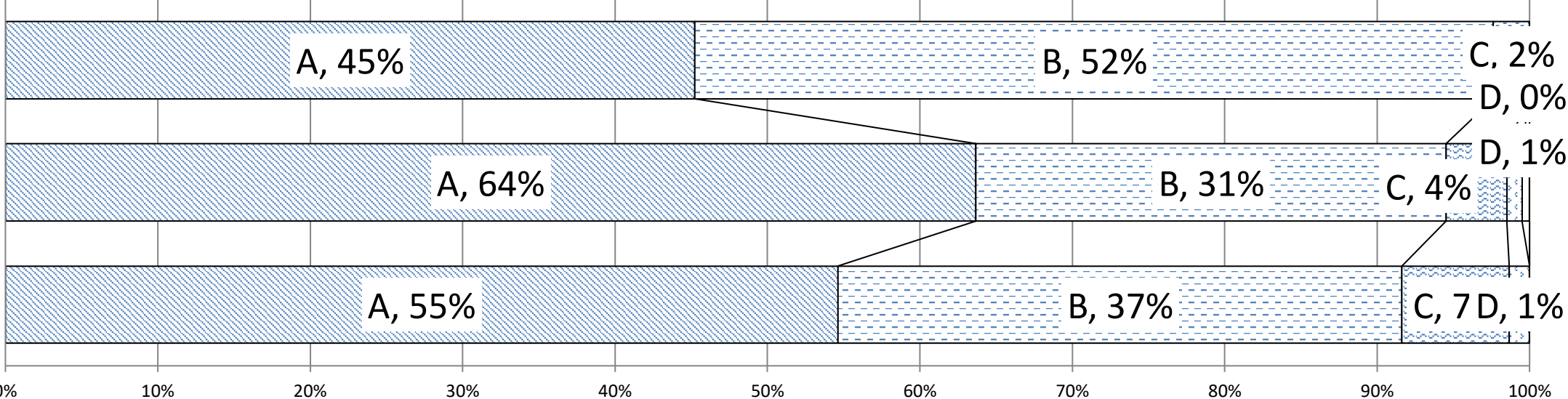
意識調査No. 2		＜教務部＞																									
生徒		保護者	教員																								
あなたは、定期的に家庭で学習に取り組んでいる。		お子さんは、定期的に家庭で学習に取り組んでいる。	あなたは、定期的に家庭で学習できる指導をしている。																								
結果	<table><thead><tr><th>対象者</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>無回答</th></tr></thead><tbody><tr><td>教員</td><td>12%</td><td>64%</td><td>21%</td><td>0%</td><td>2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>12%</td><td>42%</td><td>40%</td><td>5%</td><td>1%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>11%</td><td>34%</td><td>41%</td><td>13%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	12%	64%	21%	0%	2%	保護者	12%	42%	40%	5%	1%	生徒	11%	34%	41%	13%	0%
	対象者	A	B	C	D	無回答																					
	教員	12%	64%	21%	0%	2%																					
	保護者	12%	42%	40%	5%	1%																					
生徒	11%	34%	41%	13%	0%																						
原因及び反省	○本年度からスタディサプリの課題を毎週末全学年に配信する取り組みを始めた。クラス毎に課題の取り組み状況も掲示し、課題が未提出の場合は提出を促す指導も行っている。																										
改善策	○学年によってスタディサプリの取り組み状況に差があるため、スタディサプリの取り組み状況を成績にも反映したり、授業の予習・復習として取り組ませたり、科目や進路との関わりを深める。また、未提出者は放課後に居残りして取り組ませる等も必要である。 ○スタディサプリへのログイン方法を忘れる等、ICTを使うことが苦手な生徒もいるため、対応できる教員を増やす。																										

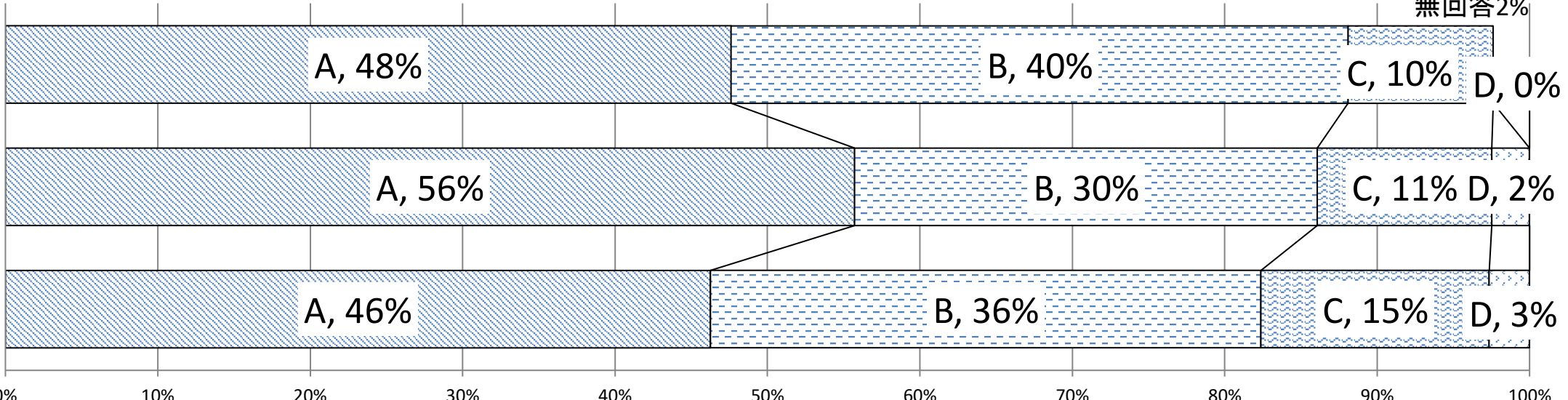
令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答					
意識調査No. 3			<教務部>		
生徒		保護者		教員	
先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。		あなたは、授業参観の機会があれば参加したいと思っている。		あなたは授業の工夫改善に努めている。	
教員		保護者		生徒	
A, 52%		A, 32%		A, 42%	
B, 48%		B, 51%		B, 50%	
C, 0%		C, 15%		C, 7%	
		D, 1%		D, 0%	
		無回答, 0%			
0%		10%		20%	
30%		40%		50%	
60%		70%		80%	
90%		100%			
○新学習指導要領への移行にともない、AI視点からの授業改善とICTを活用した授業を行う教員が増えた。特に1年生の授業においては評価方法も異なるため、それに対応するため教員も試行錯誤している。その試行錯誤の結果として、生徒や保護者にとってもわかりやすい授業が増えたのではないかな。					
○全体として高い評価にはなっているが、〈保護者〉の評価がその中でも低めになっている。授業の工夫に努めている教員がほとんどであるため、その実践を知ってもらうために、保護者が授業を参観する機会を増やすことが必要である。					
○特別教室等もICT環境を整えることで、多くの授業や実習で工夫をしやすくなるのではないかな。					

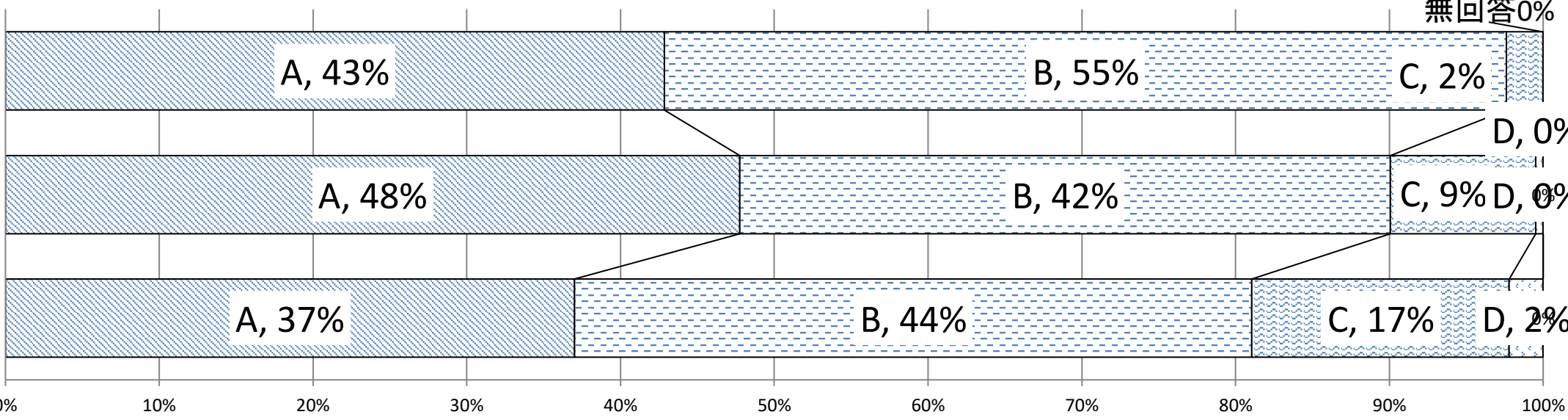
意識調査No. 4		＜生徒指導部・保健部＞	
生徒		保護者	教員
あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。		あなたは、お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	あなたは、生徒が遅刻・欠席・早退をしないように指導している。
結果	教員		
	保護者		
	生徒		
	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%		
原因及び反省			
○教員、保護者、生徒のA評価が昨年よりも増加し、意識の向上が見られる。 ○一部の生徒が危機感を感じていない。			
改善策			
○進路活動や卒業後の実社会での在り方などと結び付けて、粘り強く指導を行う。			

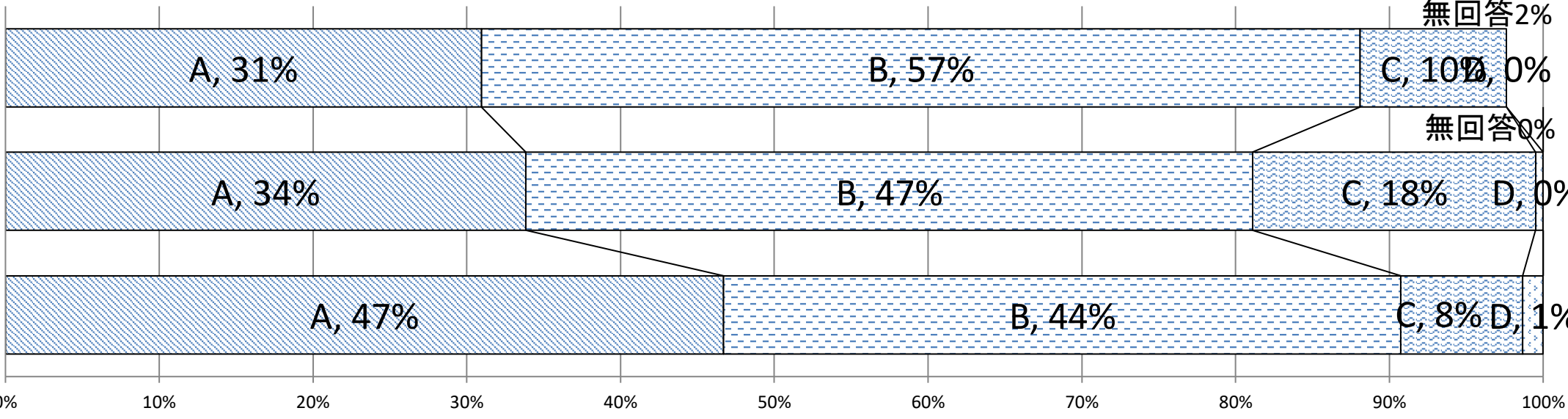
令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答																									
意識調査No. 5			＜生徒指導部＞																						
生徒		保護者		教員																					
あなたは服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。		学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。		学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。																					
 <table><thead><tr><th>対象者</th><th>A (45%)</th><th>B (52%)</th><th>C (2%)</th><th>D (0%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>教員</td><td>45%</td><td>52%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>64%</td><td>31%</td><td>4%</td><td>1%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>55%</td><td>37%</td><td>7%</td><td>1%</td></tr></tbody></table>						対象者	A (45%)	B (52%)	C (2%)	D (0%)	教員	45%	52%	2%	0%	保護者	64%	31%	4%	1%	生徒	55%	37%	7%	1%
対象者	A (45%)	B (52%)	C (2%)	D (0%)																					
教員	45%	52%	2%	0%																					
保護者	64%	31%	4%	1%																					
生徒	55%	37%	7%	1%																					
○教員、保護者、生徒のA評価が昨年よりも増加し、意識の向上が見られる。 ○一部の生徒が好きにしたいなどの意見を出している。																									
○集団の一員として、実社会での在り方、ルールなどと結び付けて、粘り強く指導を行う。																									

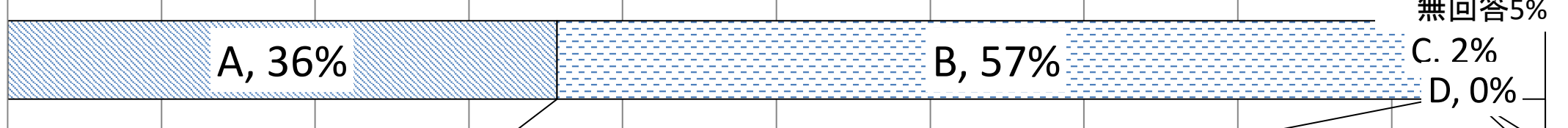
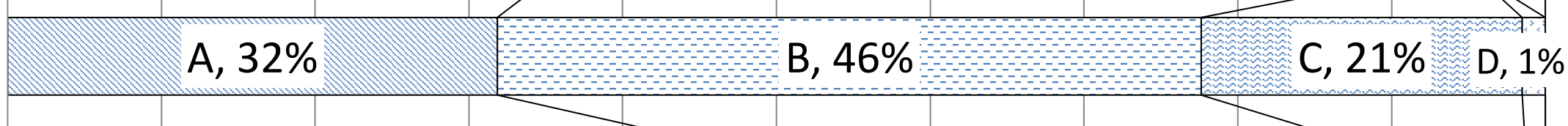
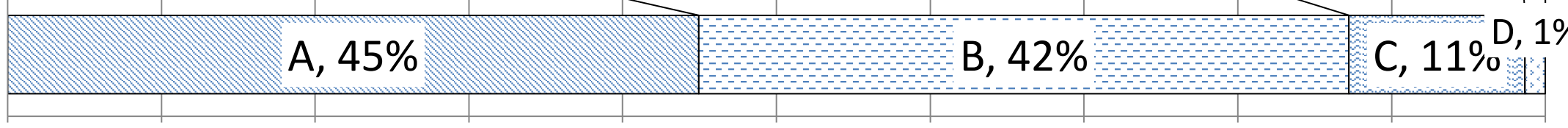
意識調査No. 6		＜生徒指導部・農業部＞																							
生徒		保護者		教員																					
あなたは、部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。		お子さんは、部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。		あなたは、生徒が部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動するよう指導している。																					
結果	 <table><tr><th>対象者</th><th>A (48%)</th><th>B (40%)</th><th>C (10%)</th><th>D (0%)</th></tr><tr><td>教員</td><td>48%</td><td>40%</td><td>10%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>56%</td><td>30%</td><td>11%</td><td>2%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>46%</td><td>36%</td><td>15%</td><td>3%</td></tr></table>					対象者	A (48%)	B (40%)	C (10%)	D (0%)	教員	48%	40%	10%	0%	保護者	56%	30%	11%	2%	生徒	46%	36%	15%	3%
	対象者	A (48%)	B (40%)	C (10%)	D (0%)																				
	教員	48%	40%	10%	0%																				
	保護者	56%	30%	11%	2%																				
生徒	46%	36%	15%	3%																					
原因及び反省																									
○全体的に評価が上がっているが、教員のC評価が昨年よりも増加した。																									
改善策																									
○例年、2学期以降に部活をやめる生徒が見受けられるため、教員の積極的な働きかけ（生徒とのコミュニケーション等）を図る。																									

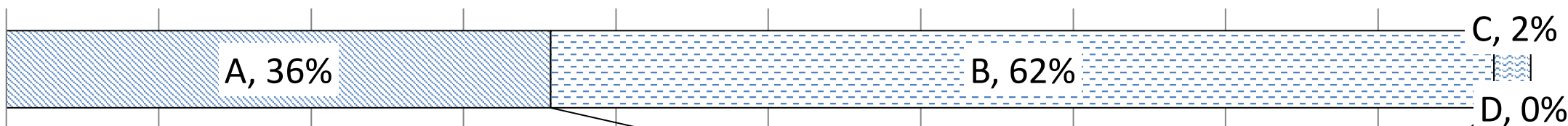
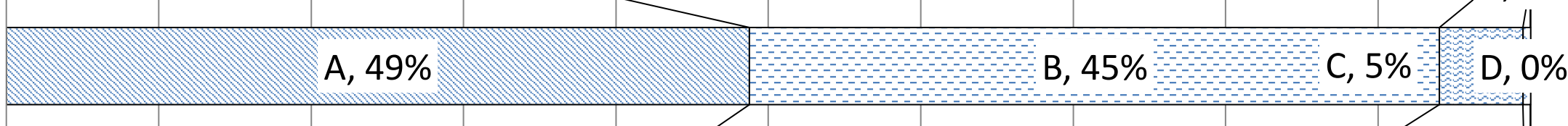
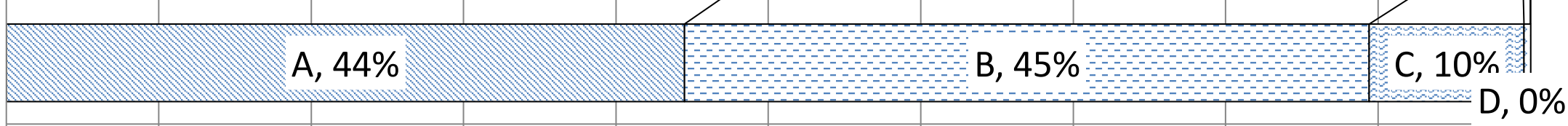
令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答																													
意識調査No. 7			＜生徒指導部・保健部＞																										
生徒		保護者		教員																									
あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。		お子さんは、高校生活をとおして以前より自信を持つようになった。		あなたは、生徒が学校生活をとおして以前より自信が持てるような指導に努めている。																									
 <table><tr><th>対象</th><th>A: 当てはまる (そう思う)</th><th>B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)</th><th>C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)</th><th>D: 当てはまらない (そう思わない)</th><th>無回答</th></tr><tr><td>教員</td><td>43%</td><td>55%</td><td>2%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>48%</td><td>42%</td><td>9%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>37%</td><td>44%</td><td>17%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr></table>						対象	A: 当てはまる (そう思う)	B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)	C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)	D: 当てはまらない (そう思わない)	無回答	教員	43%	55%	2%	0%	0%	保護者	48%	42%	9%	0%	0%	生徒	37%	44%	17%	2%	0%
対象	A: 当てはまる (そう思う)	B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)	C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)	D: 当てはまらない (そう思わない)	無回答																								
教員	43%	55%	2%	0%	0%																								
保護者	48%	42%	9%	0%	0%																								
生徒	37%	44%	17%	2%	0%																								
○全体的に評価が上がっている。																													
○何に対し自信がないのかはわからないが、2学期以降、様々な行事が行われるので、各種行事に積極的に参加できるように働きかけ、生徒が活躍できる場面を増やす。																													

意識調査No. 8		<進路指導部>																											
生徒		保護者		教員																									
あなたは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。		お子さんは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。		生徒は、進路行事をとおして卒業後の進路を考えるようになった。																									
結果	教員	 <table><tr><th>対象</th><th>A: 当てはまる (そう思う)</th><th>B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)</th><th>C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)</th><th>D: 当てはまらない (そう思わない)</th><th>無回答</th></tr><tr><td>教員</td><td>31%</td><td>57%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>34%</td><td>47%</td><td>18%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>生徒</td><td>47%</td><td>44%</td><td>8%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr></table>				対象	A: 当てはまる (そう思う)	B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)	C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)	D: 当てはまらない (そう思わない)	無回答	教員	31%	57%	10%	0%	2%	保護者	34%	47%	18%	0%	0%	生徒	47%	44%	8%	1%	0%
	対象	A: 当てはまる (そう思う)	B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う)	C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない)	D: 当てはまらない (そう思わない)	無回答																							
	教員	31%	57%	10%	0%	2%																							
	保護者	34%	47%	18%	0%	0%																							
生徒	47%	44%	8%	1%	0%																								
原因及び反省																													
○保護者の「C（あまり当てはまらない）」の割合が、教員・生徒より若干多かった。保護者は教員・生徒とは違い、生徒から渡される「進路だより」と「学校ホームページ」により進路行事のことを知るので、周知がされない場合もあった。 ○1学期は、1年次と2年次の主な進路行事を行っていない。そのことが「C（あまりあてはまらない）」が若干多い原因とも思われる。																													
改善策																													
○保護者への進路行事の周知のため、生徒に配った「進路だより」を確実に保護者に渡すことの指導をするとともに、「進路だより」をPDFにして学校ホームページにあげる。																													

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答					
意識調査No. 9			＜進路指導部＞		
生徒		保護者		教員	
学校は、進路に関する情報を十分に提供している。		学校からの進路情報を参考に、お子さんと進路に関する話をしている。		学校は、進路に関する情報を生徒・保護者に十分に提供している。	
教員					
保護者					
生徒					
○保護者と生徒の「C（あまりあてはまらない）」が若干多い。また、教員と「C」と「D」の差がある。「進路だより」にて情報は発信しているが、ありとあらゆる進路情報のすべてを学校（教員）に委ねている面もある。					
○就職や進学に関する情報の入手方法を保護者と生徒に知ってもらう。 ○生徒に対しては、自分の力で進路情報を入手する仕方を伝える。 ○学校は進路情報の発信および、進路情報の収集の仕方を伝える。					

意識調査No. 10		<保健部・総務部・農業部>	
生徒		保護者	教員
学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。		学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。	あなたは、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に努め、感染対策を生徒に指導している。
結果	教員		
	保護者		
	生徒		
原因及び反省	○学校生活全般で安全対策に取り組んでいる。 ○マスクの着用やアルコール消毒等について、大部分の生徒が習慣化している。		
改善策	○引き続き、マスクの着用、アルコール消毒、教室の換気等の指導を行う。 ○昼食の時、向かい合って食べている生徒がいるので、巡回指導を行う必要がある。		

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 11		＜総務部・農業部＞			
生徒		保護者		教員	
学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。		学校はホームページの掲載やメール配信などの情報発信に努めている。		あなたは、ホームページ掲載に努め、メール配信を活用している。	
結果					
	教員				
	保護者				
	生徒				
原因及び反省	○生徒、保護者のA Bの割合が高く、ホームページやメール配信システムを有効に活用しているのがわかる。				
	○教員のA Bの割合が少ないのは、ホームページ掲載やメール配信が不得手などが考えられる。				
改善策	○各部や学年を中心に、多くの教員がホームページやメール配信システムを活用できるように進めていきたい。				
	○日々の学習内容や学校行事、部活動の様子等を積極的にホームページに掲載するように働きかける。				
○行事だよりのホームページの更新等を複数で確認し、適時に行う。					